WASON
HQ
1104
J74+

THE
WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十一年二月四日刊行

Feb. 4
1888
no. 95

東京 女學雜誌社

第九十五號

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府内無郵送税

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 95, FEBRUARY 4TH, 1888.

第九十五號

EDITORIAL:— Our Views in regard to the woman's Sphere and Education: No. II.
LEADING ARTICLES:— Senator Kato on Practical Morality (Concluded).
MISCELLANIES:— Writer and Matrimony (II); "Flesh is weak"; Fashions in Hats from 1800 to 1887, illustrated.—II; Lectures to Children; Bouquet of Novels.
NOVELS:— "Last Days of Pompeii." (Athenian's Confession).
BIOGRAPHIES:— Madame Elizabeth (Concluded) by Miss M. Hasegawa.
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.
SUPPLEMENT:— Condition of women in Japan (English) by Miss K. Shimada.

●社說　吾人の意見を明かにす（其二）
●論說　品行論第三（加藤弘之述）
●叢話　文人記者の伉儷第二○習慣のはなし○八十七年間英國婦人帽子の變遷第二○小供のはなし○小說神髓
●小說　奔彪榮華の夢（雅典人の述懐）
●佳傳　マダム、イリサベスの傳（其三）
●寄書　文苑（鈴木弘恭撰）
●新報　二十五件
●附錄　日本の女兒英文（島田かし志）

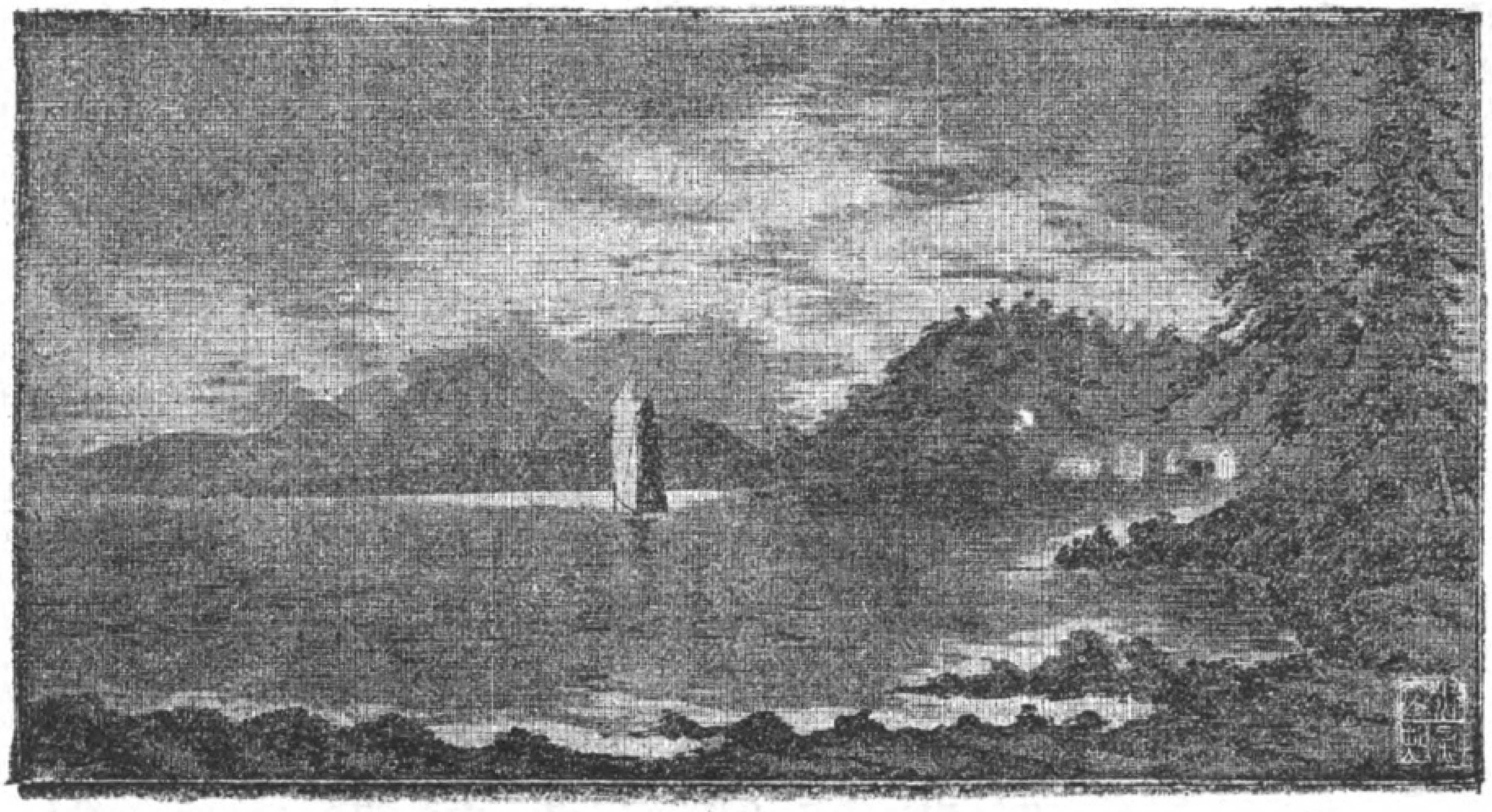
●珊瑚の珠　（第五十一回）

○ウールソン曰くゼヲチヂュリヲット（女小說家の有名なる人）の小說を概括するに千篇に通ずる一箇の神髓あり即はち卓越したる少娘女が社會の習慣の爲めに苦しめらるゝの一事是れなり蓋し自然及び道理は皆な之が助けと成るに係はらず社會なるものは常に之が敵と爲つて之を破るもの也。

○昔より國家の滅亡する原因を察するに多くは姫妾の事に因る夏桀は妹喜を以て滅び商紂は妲妃を以て滅び衞靈は南子を以て滅び夫差は西施を以て滅び唐高は武氏を以て滅び明皇は貴妃を以て滅ぶ思ふに彼の希臘の美姫ヘレンを取り回へさんが爲めに希臘國土が勇將猛卒を驅てトロイの都城を襲撃せしより羅馬の猛將アントニーが埃及の女皇クレチパツラに深戀したるより爭端を開くに至る迄の間に起りたる無數の戰亂は概ね皆な是の一片の情焔を制止するあたわざりしに縁起するものなり故に佛蘭西のパスカル曰くクレチパツラの鼻にして少しく斜なるか若くは平扁なりしならばアントニーが戰亂は恐らく之れあらざりしならんと。

○越の西施は如何に毀るとも其美を掩ふ能はず齊の無鹽は何如に美るも其醜を藏すあたはず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY



女學雜誌第九十五號
明治二十一年二月四日發兌

社説

○吾人の意見を明らかにす（其二）

客亱や久しく考えに沈みたるが扨て復た問を發こして申さる様は。云く女子敎育其外に就ての賢慮畧ぼ承れり候が然らば御社中の意見は懷胎分娩の一事を以て男女相違の極點と定め而して此の一事が心の上え及び躰だの上に及ぼすべき影響を測り此を目途として万づ女の事柄に付て御議論あるとの趣き甚はだ面白きお考えの様に心得候然し抑もこの心及び躰だの上に及ぼすべき影響とれ大凡何如ようの者に候乎之を承知せざれば推して實際に適用も致しがたく存ず序でに伺置度候。

余云く。御尤ものお尋ね此儀甚れだ肝要と存じ候然し之は余程の大議論にして中々容易すく分明いたすものには無之し吾人上等動物の中に就き凡そ仔を懷胎するもの丶種類を取調らべ其の牝牡雌雄の間だに存する性質の相違を研究も致し又た社會學に據りて最初家族なるもの丶起生したる由來を承知し及び當時母と子との關係を父子の間柄に比較も致

したることあり次には懷胎の心配、分娩の苦痛、育兒の經驗等よりして心の上に及ぼすべき心理學上の影響をも多少は研窮いたし尙ほ遺傳の理合に關はる種々の議論を較らべ父母が其子に傳うる實際の氣質を考え特に母親が其の娘に於ける遺傳の模樣如何んと注意して及ばず乍ら先覺の立論を色々に試驗したることも有之候が何分只今之を分明に申上て彼の懷胎より起り來る影響は之れ〳〵なりと精密に陳ずるとは迚も出來べからざる所ろに候然し異日必らず多少研窮したる所ろを公けにして世の大方の批評を仰ぎ度存候儘之は今より足下に豫約いたし置くべし、故に只今此のお問に答えては下の如く申すより外御座なし即はち女性は男子よりも感情深く、愛心厚く、執着の念淺からず、變化を好むの氣質少なく、注意綿密、忍耐持久、概するに靜肅を愛して內に居ることを樂しみ、躰力弱く寧ろ力業を好まざる、等の性質あるべきもの丶樣に考えらる而して之は今日の婦女子に付てのみ申すにはあらず凡そ婦女子なるものは未來永却常に男子と大抵斯の如き事柄に於て互ひに相違する所ろなるべしと存候也。

客。然らば此儀は先づ其迄に伺ひ置き更めて承知いたしたきは當今女子の地位を進め所云る女權擴張の美擧を實行いたすに付て御社は何如なる手段を用ひらるべき乎。

余。之は亦た廣大の問題にして精しくは申盡すべからず即はち吾々社中の者は凡そ何事に限らず苟くも女權を進むべき方法とならば細大內外を問はず悉く之を實行致したしと存ずる所ろには候へども其の間だにも自づから輕重彼此の相違有之ことと承知し即はち平生左の三つの事を覺悟致居候、

甲。輿論を引起し惣躰大勢の上より女權を擴張する事

乙。特に男子が卒先して盡力あるべき者の事

丙。特に女性が覺悟して盡力あるべき者の事

右樣三つに區別して相考え候もの丶當今さしあたり女權擴張の途に存する必要の事柄を申せば、

第一從來の惡習慣を破りて世人惣躰に女子を同等の人類なりと認めしむること尤も必要と存じ候之は啻に世の男子方が女性を輕んぜらる丶のみならず婦人方自身も亦た自から卑しみて何か男子より一等下りたる人間の如く思はる丶の習慣ある今日甚に大切の改良策と存ず成程公平明白に申せば今日の婦人方は智慧も才力も悉く男子に劣る丶と勿論なりと雖ども凡そ一個の人間としての天賦人權は智慧才學

權威勢力等の爲めに一分にても增減あるべきものにあらず例へば六才の童子は万事悉とく少壯の長者に劣るとなれども左らバ人間として其等級が彼に劣れりとは思ふ可らざる如くに今日實際男女の才智は何如ほどに相違すとも人としてハ之を同等に見做して敬愛自重するの念が男女の双方に之れなくてハ成らず。然るに此如き高尙淸潔の志想を引起さんことは智力權力を以て優勝劣敗する俗世界に望み得べからざるものにて必らずや上帝の前に立つて人類互ひに同胞の兄弟姉妹と心得天より出るの愛を以て相ひ愛するの心得なくては決して得べからざるものなるが故に吾々社中の者は基督敎を以て女權擴張の根元なりと信ず、蓋し基督の敎は人類を一視して上帝の前に男女老幼の區別を爲さず故に之が勢力に依りて奴隷も平民と同一の人間と成りぬ貴族も漸次に平民と同樣の交際を爲しぬ罪人も方正廉直の人と相ひ手を握りぬ惣じて凡そ人類なるものは其何如なるものを問はず上帝の前に立ち相ひ手を繫いで一直線に並列するに至るは即はち基督の敎の眼目なるが故に男女を同等に見て心より眞に相ひ敬愛するの念ひを起さしむるには此に依るの外か更らに良好の方法なしと存ず。

然るに此の大本の方法を運らすと共に同時に忘却すべからざる種々の方法之れ有り先づ何如に苦々しき事とは云へ實際智力權力を以て優勝劣敗する俗世界に於ては即ハち亦た智力權力及び此等の智權の一層上に立つべき彼の道德の力等に於て女子が假令ひ男子に優らずとも切めて之と同樣と成り此等の事柄に於て男子に劣らざる程の資格に至りたきこと也。故に女性は先づ彌よ其道德を脩めらるべし當今女權擴張の日に當りて婦人方が益す其の女德に注意し成べく優雅淑貞にして夢々輕薄野卑粗暴亂雜の行儀ある可らずと吾人が每々申す所ろの一つの大主意は之が爲め也、次には彌よ其智識を增るべし女學校女學會日に增加して婦人方其學問の力を加え當今一と通りの事は無論悉く之を承知する上に或る限りに至る迄は男子と同樣に修業して之に劣らざる學力を具え其上は全く男子と異なりたる方角に向つて進み各々門を別にして互に長ずる所ろあるに至らんことを望む之も亦た吾人が每々切望して止まざる所ろにして其の一つの目的は即ち女權擴張の眞方便たるが故也、次には彌よ其權力を增すの方法を爲すべし先づ右の智德の增加するは即ち亦た實際に權力の增加することにあれども其外婦人方が

何か一つの職業を覺え置く事又た財産の幾分を女子に附與するの習慣を造る事又た妻の財産を夫が自由に使用し得べからざるの法律を設る事、其外社會上に於て婦女子の運動を束縛する色々の習慣を破り之をして自由に立働かしむるの便利を供うる事等は即ち亦た婦女子の權力を增加するに大切なる方法と存ず故に此類の事に付ても亦た吾人が平生熱心に盡力して其方法を得たしと希望する所ろにして畢竟亦是れ女權擴張の一方便なりと思考するが故に候。

此外尙ほ固より無數の申すべきとは有之候へども吾々兄弟姉妹と協力同心して第一に輿論を引起し惣躰大勢の上より女權の擴張を計らんとするには即ち大略右樣の事を平生の覺悟といたすとに候。

扨て又た男子方の不心得を責めて其の勝手氣儘なる行跡を制止する事を初めとし大凡そ是迄男子が女性に對して行う所ろの處置のうち其の道に反したる箇條を一々に忠告し嚴しく其品行心術を取締まるとは女權擴張の上に同樣に大切の事と存ぜられ候が之は世の婦人方が自から論辨ありては自づから面白からざる所ろあり特には幾分か反動の勢ひと相成つて其效驗も自然に薄かるべしと存じ候まゝ惣じて此類の事は男子中の心あるものより申し出して味方の中に忠告諫止を爲すときは事思の外に容易く行はるべしと信ず左れば堂々と女權擴張論を主張して男子に斯々の通り心得あるべしと迄に指命するは成るべく亦た男子中の女權擴張論者にて致したきことにて是れ即はち吾々が第二の覺悟として男子方が特に盡力あるべきものと致す所ろ也。

但し斯く申せばとて世の女性方が自から女權擴張論を主張し正面より男子の不心得を責めらるゝとを常に惡策なりと云ふにはあらず時に臨み亦た人によりては此樣なる處置が反て莫大の効驗を呈するともあらんと雖ども吾々つらく當今の日本男子の人と爲りを見て其心中を洞察するに女性方が自から其權理を伸張せらるゝに於て之を口又は筆に現はして嚴しく論辨せらるゝは決して上策にあらずと信じ居り候元來女權を擴張するとは即はち實際に女權を擴張いたすとの義にして何も花々しき議論目に立ちたる事柄のあらんとが必要なるには候まじ苟くも功を實際に收め成るべく速に其の望む所ろを達せんとをば專一に致すとならば凡そ不都合なき限りは男子の好む所ろに應じて知らず識らざるの間だに女權を收攬の工夫こそ尤も賢こき處置なりと

存じ候。夫故え婦人方は愛深き妻と爲りて能く其の夫を助け又ハ賢明ある母と爲りて能く其子を敎ゆることを專らと爲さるべし然るときハ夫たるもの苟くも其の妻の助けあくてハ一事をも安んじて爲しがたきに至り候半此時こそ女權擴張の論を一言だも口にせずして既に實際に其權を收攬したるものとこゝろ申すべし將又た子供ハ母の軟らかなる手に撫育せられて人と成り活世界に立出でゝ扨て自から省みることきは母の敎育一々身にしみて終身の感化を及ぼすことを悟り此に於て孝あらざらんとするも得べからず自然に其母を尊敬すること決して父に異ならず或る時は父にも立越えて之に寄依すること有らん此時母親たるものは既に子供を通して其の權力を十分に主張したるものとこそ申すべし、事苟くも斯樣に相成るときハ啻に夫もしくは男兒か獨り其の妻其の母を尊敬々愛するのみにあらず之より延いて女性惣躰を尊敬々愛するの情に移り或る時ハ又た世人が女性を輕蔑するを憤ほりて卒先女權擴張論を主張するに至るべし彼の賢明にして愛深き妻を持つたるジヨンスチウアートミル氏が男女同權論を初めて熱心に主張したるが如き又ハ孔子の敎を祖述して事々に其の論法に從ひたる孟子も其の母の感化を蒙りたること著大あるが故に則はち女性を見ること孔子の如く冷淡あらざりしの類能く此處の道理を證するものなり更らに世情を穿ちたる實例を申せば方今新聞雜誌の上に於て堂々と論辨することは之を內部より私しに勸告注意して事を圓滑に執り行ふに比して其の行はるゝこと幾干の相違ぞ忠臣が面を犯して堂々と諫言立てするは內宮の淑女ひそかに奏する所ろあつて下々の思ふ所ろを申上るに比して事の實効幾干の相違ぞ固より時に臨みてハ直言公論尤も必要にハ候半が平常斯の如き手段をのみ行ハんにハ迚も圓滑に容易に其効を見ることは得まじきが如し抑も君臣上下と云ふ威儀張りたる間柄にてすら既に斯の如しと云はんに平素相思相愛を專一にすべき男女の間柄に於てハ尙更ら荒々しき議論風の事を後にするが肝要と存じ候、此故に堂々と論辨して男子の不心得を責るハ男子中の心あらんものにて致すべし惣じて女性の方々は成るべく良妻賢母と爲つて能く其夫を助け其子を敎育し言ハず述べず知らず識らざるの間だ實際に其權理を收攬擴張せらるゝが上策ありと信ず即はち是れ第三に申うす特に女性が覺悟して力を盡さるゝの所ろにて候而して右ようの事ハ去年の夏吾々が本誌上に「女權擴張に表

裏の二途あり」と題して論じたる者を參看ありたく候。

客。色々と承れり畧ぼ御社中の考えを承知いたし有がたく候何卒斯の道の爲めに此上とも御盡力ありたく尤も希望する所ろに候。

主。御注意謝する所ろに候此外尙ほ申上たき事柄澤山に候へども女子敎育、女權擴張、の二大事に就て吾々社中のものが平生の覺悟といたす大略をお聞に達するを得たれば眞に滿足いたし候、吾々の願望は此の覺悟を以て當今必要の此の御時勢に應じ道を踏んで懼るゝとなく正論斷行少さか國家の爲に盡力いたしたく存ずる所ろに候然るよ吾々一社惣員の臂を揮うとも其力ら眞に覺束なきものに候得バ同志の人を國中に募り協心同力相應じて斯の事に盡力仕りたく多年切望する所ろ也兾日其の計畫のあらんとき足下の如き何卒第一に御贊成ありたく尤も願う所ろに候。

客。謹諾。

此時月既よ沒し時計音高く四面沈々として靜かなりき客を送つて門外に出で仰いで天上の星を望む神氣淸快再び學齋に入つて遂に此の問答を記るす、一月二十日。

" Let each considerate person have his way, and see what it will lend to. 'Many shall run to and fro, and knowledge shall be increased'." Carlyle.

論說

○品行論（其三）

加藤弘之述

動物的情欲	生命。飲食。男女。自由。安逸。
人類的情欲	健康。富貴。名譽。權力（即權利）。道德。知識。

こゝに掲げてある通り、動物的情欲と、人類的情欲と、有ます。この情欲と云ことも、深く考へたことてハ有ませぬが、動物的情欲と云ふのは、イノチが惜いと云欲、飲食の欲、男女の欲、自由を好むの欲、安逸を好むの欲などで、これだけの欲は、ケモノにも、トリにも、また人間にも有るのである。尤も、區分の仕方が惡いかも知らぬが、先アラマシを申と、コンナもので有ます。其から、人類的情欲の方になりますと、第一に健康を欲すると云欲が有ます。動物でも、イノチが惜いと云ことハ、知ッて居ますが、健康を保ちたいと云ふことハ、知ッてハ居りませぬ。其れから、人類的の方でハ、富貴を欲し、名譽を欲し、權力權理を欲し、其れから、道德ある人に成たい、知識ある人にありたいと、云欲が有ます。さて、他の動物は、動物的情欲だけしか持ぬが、人間ハ兩方持としたところで、人類的情欲の方が、貴いに違無い。其にハ、動物的情欲の方を、制していくやうに、しなけれバなりますま

い。例へば、人間が健康を保たうと云ふのは、人類的の情欲の方だから、其れには、飲食と云ふものを、節するやうに、しなければなりませぬ。(飲食の欲は、動物的の方だから)。また、名譽とか、道徳とか、知識とか、云ふものを欲するには、安逸と云ふ情欲を、よしてしまはなければ、なりませぬ。

其れて、今の日本の有志の人で、男女の間の品行に付て、矛盾したことを、して居らうと、思はれることか、有ります。これも、日本人ばかりならば、サホドでも無いが、段々西洋人と交はッて來、西洋人も雜居しやうと云ふときに、妾を置いたり、女を壓制したり、藝者をあげたりしたら、開化人民の名譽を汚すものと、なりませう。苟くも、名譽を得やうと云ふには、男女の情欲を節しなければなりますまい。自分の勝手次第なことをして、名譽を得やうと云ふことは、迚も出來ることで無い。若、西洋人の眼から見て、禽獸の有樣であれば、モハヤ、開化の名譽を失ふことになります。開化の人民となッて、國會議員になッたり、何かして、立派なことを論じて見やうとか、自由とか權理とか言ッて、威張ッて見やうとか、云ふには、男女の欲は、勝手次第だと、言ッて、すまして居ることは、ドウしても、出來ませぬ。イクラ、欲が深くッても、人類的の欲と、動物的の欲と、一所に得やうと云ふことは出來ませぬ。(尤も、西洋人と言ッても、皆な品行のよい人ばかりでハ無、中にハ品行の惡い人、即ち格ハヅレの人も、有りますけれども)。

一體、女に本當の教育が出來て、精神が立たんければ、仕方か無が、其れまでは、男の品行は、ドウして置いてもよいと、云ことは言ませぬ。近頃は、何も彼も、西洋流になるのに、男女の品行のことだけは「此限ニアラズ」と云て、打ちやッて置くことは、出來ませぬ。高等の欲を得る爲めには、下等の欲を捨てなければなりませぬ。政府に在る人でも、草莽に在る人でも、苟くも、改良とか、開化とか、云ふことゝ、議論でもしやうと云ふ人は、品行のことも、考へなければなりますまい。然るに、不品行のことをして、其れを耻とも思はんで、藝者屋や女郎屋で、權理義務のことを論ずるのハ、困ッたことでは有りませぬか。

今日は、たゞ其れだけのことを、お話ししたので有りますが、これに付て、一言して置ことが、有ます。私が、品行のことに付て、斯う云と、或ひは「二三箇月前にこゝで、日本人は兎角、西洋流に走るが....と言演説をしたが、其説と今日の説と、矛盾しはしないか、あの演説で見ると、西洋のことは、アンマリ急に、眞似ない方が、宜では無か」と云ふ説が、有るかも知らぬが、私

の考へは「取捨するが宜い」と云ふので、「何も彼も、變へてはイケナイ」と言ッたのでは、有りませぬ。此のことを悉しく言ふと、長くありますから、別に言ひませぬが、若し此の間の演說と、矛盾して居りはしないかと、云ふ疑ひを懷く人が、有るとイケナイから、アレとは、矛盾して居ないと云ふことを、チョット序でに、申して置きます。

（完了）

批評

○時事新報の日本男子論　（從一月十日至同廿五日）

西洋の文明を輸入するを本願として同時に基督敎の傳はるを防ぎ、奥向に取入つて巧みに立身出世するの秘傳を說くの傍ら堂々として品行論を說法し、四角と丸とを一處に腦中に入れて差支へを覺へざる時事新報記者は曩に娼妓を以て親鸞弘法の功德に比し今まは日本男子の不品行を責めて毫末も假借する所なしと云ふ其の勇氣驚くべき哉。然れども吾人は人の說の猫の目の如く變はるを奇しまず何んとなれば時勢は是れ猫眼の如く時に從つて移り行くが故也故に吾人は時事新報が日本男子論を公けにしたるを謝す但し之を記者に謝するにあらず日本の時勢よく記者を驅つて此論を公けにするの勇氣を與ふるに至りたるを謝す而して時勢の舵を曲げて夙に輿論の方向を數年前に指示したる君子先覺に對しては吾人今更らに倘ほ之を鳴謝せざるを得ず。

○毎日新聞の美術論　（從一月十九日至同二十二日）

醫者が訴訟を鑑定し代言人が脈を察るは甚はだ危うき事なり然れども毎日記者は自から如此く謙遜するに拘はらず能く正當に日本美術の大勢を論ぜり蓋し文化文政の貴族社會すでに消散して明治の民の竈は未だにぎはふに至らず而して方今の上流紳士多くは酒肉の慾にさまよふ高尙清潔の美術の起らざる勿論の勢ひと云ふべし吾人も亦た魂しひを高くし精を清くする眞正の美術の大に勃興せんとを希ふもの也。

○日報記者の脚本樂譜　（一月廿一日同廿四日同二十五日）

日々新聞は此度出版條例及び版權條例に據りて演劇脚本及び樂譜に出版版權を所有するの便を得たるを賀し先づ興行權と題する文章を以て寛永此の方演劇並びに淨瑠璃本の盛衰したる跡を叙し才筆一走して巧みに興行權の無かる可らざるを論ず、次に引續ひて唱歌の改良と題する一篇を作り萬葉古今詞華千載金葉扶木の諸集もしくは神樂催馬樂今樣風俗朗詠の諸樂を罵り去つて自今唱歌の改良に着手するものは先づ唱歌の

何ものたるやを知り所云る聾作りの失に陷ると勿れと勸告したり、最後に脚本改良の注意を述べて先づ演劇に名教維持の大役を要るを笑ひ一部の脚本は原と論語小學に非ざるが故に著く風俗名教を紊亂せざる限り何等の境界をも將て以て脚本の立案となすべく特に男女の情合は演劇に必要の分子なれば成るべく之を十分にして枯瘦無味の弊に陷ると勿れ將た又脚本作家が其の立案の趣向果して實際演劇の境界に適するや否やを考定するは第一必要の事なりと論ず。何れも尤もなる議論にして何人も不同意なる可らず」吾人は世の新聞紙が三百六十五日政治熱にのみ浮かされて他界の事に毫末も口を容れざるを厭ふ然るに近日如此く續々として相應じて吾々女性に關係淺からざる事柄を說かる即ち玆に尤も鳴謝するところなり。

叢話

○文人記者の伉儷　（つゞき）

文人記者は讀書著作に餘念なく終日終夜明窓の邊孤燈の下に座を占めて内房に歡樂するとの甚だ少なきが故に扨ては細君の不平の種となるものなり若し彼等にして日夜若干の餘暇を造り出し或は爐邊に談笑して奧底なき交際を爲すか又は手を引いて公園に逍遙し樹林清泉の間だに共に鬱を忘るゝの遊びを爲さんには蓋し細君は其餘の時間を勝手に讀書著作に用ゆるとを許せしならん此故にソ ク ラ ッ ト少し氣を利かせて之に注意したらんには恐らく水をあびせらるゝの憂ひもなく太公望も少と之に氣が附いたらば態々お盆の水を覆へすにハ及ぶまじきに彼類の人々一向に此の工夫を知らず遂に細君の怒る所と爲れるもの乎。然らば是れ即ち文人記者細君と調和するの良策なりや吾人が前に「此に只だ一つの途あり」と約したるものハ果して此の如き方便に過ぎざるやと問はるゝ人もあらん曰く之よりも更らに勝れたる一つの調和策あるなり、元來文人記者が其讀書著作に熱心と成るは決して惡しからぬとなり若し運動の足らぬと云へる醫師の小言を除きたらんには決して之に對して苦情の言ふべき者あらざるが故に吾人も亦た之に勸告して少しく其の熱心を冷やかに爲し玉へとハ言はず寧ろ玆に錦囊の秘策を呈し細君と共に其の讀書著作の熱心を分ち玉ふべしと云はんと欲す。凡そ著作讀書に一生を沒する如き文人記者は最初伉儷の緣を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

取結ぶときより既に其の擇ぶ所ろ高尙ならざるべからず左らば其の細君たるものも必らず尋常文字なきの賤女子にあらずして多少の心得あるものたらんと思はるゝに付ては彼の讀書に執着するとき宜しく相ひ机に對して好みゞの書物を讀むべし又た著作に從事するとき宜しく夫婦其勞を分ちて各その出來る所ろを爲すべし斯て日夜共に與に一つの仕事を執りその疲るゝや大抵同時にして同時に相ひ茶を喫して双方相ひ慰め其の業を畢る大抵亦た同時にして同時に相ひ晩餐を喫して共に散步逍遙するの餘裕を得るとならバ此に至つて琴瑟の樂しみなからんとするも得ず是れ即はち文人記者の伉儷が和樂を極むるの秘訣なりとす。

此故にアンソニートロロープは其の草稿を一應細君に讀聞かせ其批評を受けたるのちにあらずんば印刷に附せずブロンソンハワードは細君が讀過して宜しひと斷決する迄では其脚本を賣渡すとなくグロートが其希臘史を著はすスチウワートミルが種々の名著に力を凝めたる砌りなんど何れも皆な其夫人と之を共に與にせざるは莫りき左ればこそ此等の文人記者皆な其の讀書著作に一身を打任せ得たるの中にも能く夫妻和樂の好運をば收め得たる者なり。小說家ハウツルソン一日其の役を免ぜられ快々として家に歸る細君迎へて之を室に通し熟ら其容姿を伺ふに異狀あり左りとて暴りにも聞かず懸念佇立して傍らに良人の機謙を伺ふにハウツルソン遂に實を告げて

今日お役御免に爲つた

と云ふ細君靜かに室を出で薪一把を提げ來り之をストーブに投じて温かく火を燃やし筆、墨、紙を良人の目前に置き後ろに廻わつて双の纎手を其の肩に安けり良人振り反りて其の愛妻の顏ばせを見るとき細君の云く

今日よりこそ著作出來候はん

とハウツルソンの憂雲乍まち散ず即日筆を起して草稿に掛り後遂に彼の有名なるスカーレツトレツター(赤字談)の小說をバ作り畢んぬ、世上の文人記者其の伉儷の間だを宜しく如此く爲し玉ふべき也。

吾人が謂ふ所ろの一つの途とは即はち此外に無し然れど終に臨んで文人記者諸君に一事の注意し置くべきものあり吾人は諸君が著作讀書に熱心して日夜少さかの餘暇をも有たざるを見て元來醫師にあらざるが故に今まは一つの不同意を云ふべきものなし然れども諸君は亦た其讀書著作の外に多少の樂しみあるとを忘る可らず諸君が讀書著作の勞を其の細君と共に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

分ちて平素其の專ばらにする所ろの仕事の上に於て夫妻和樂するの策を行ひ玉はんには既に吾人の意見の用ひられたるなり吾人雀躍して之を喜ぶとは云へ吾人は諸君に更らに別に一つの樂しみの仕方あるとを告げ置かざる可らずヒウム曰く

我れ人智の示す所ろ矛盾極て多く甚だ不完全なるを見て疑惑の念頻りに起りて止むと能はず爲めに諸の信仰及び推論を棄てゝ皆な信ずるに足らずと思考せり吾が存在は何れの原因より來り又た何如なる形狀に歸すべきか我が恩を求め又誰か憤ほりを恐るべき吾が周圍に在る者は何人ぞ我れ之に化力を及ぼし彼れ又我に化力を及ぼす所ありや我れ此等の問題に由り心氣擾亂し萬物を疑ふが故に暗黑裡に彷徨し故舊なく親朋なく吾が身躰だに之れ無きに至れり不幸の極何ものか之に過んや然れども幸ひにして天然の至識は此の哲學上の變狀を治ずるに足るものあり我れ書齋を出でゝ馬に乘り遊戯を試み朋友と團欒して談話する僅々三四時間にして實在の世界に住居するの快樂を縱ひまゝにし復び以前の思辨を爲さんとするに無味冷澹にして笑ふべく卑しむべく甚はだ牽强の說にぞ似たりける我れ殆んど之を爲すに忍びざる也(友人謙堂君譯)

ヒウムは有名の哲學者なり世の文人記者もしヒウムの如く時に書室を出でゝ實在の快樂を取り優々談笑せば好し細君は吾人の策を施すに足らざるの人物なりとも之が爲めに相應の愉しみを得て敢て不平なからん即はち亦た夫妻和樂の一法と見るべき者也。

○習慣のはなし

基督死するの前夜弟子三人を連れてゲッセマチの園に入り甚たく憂へ哀しみを催ほして曰けるは我心憂へて死るばかりなり爾曹こゝに待ちて目を醒まし居れと少とし進み行きて地に伏して祈り來りて弟子等の寢たるを見其一人に曰けるはなんち眠りたる乎一時も目を醒まし居ると能はざる乎誘惑に入らぬやう目を醒まし且つ祈れ其心神は願ふなれど肉躰よわき也、復行きて同じ言を以て祈り返りて復た彼等の寢たるを見るトは吾人が聖書中に見る所ろの一節にして之を讀む每に常に歎息に堪へず。

そも〱一生の師今ま將さに死に賣されんとするを聞き誰れか之を憂へざるものあらん況んや彼の三人の弟子の如き水火の苦も尙ほ甘んじて基督に從はんと欲する者に於ては其の心膓の苦腦もとより尋常にあらず師が進み行いて汗血を流し慟哭熱禱さるゝの間だ固より亦た同感同情の思ひなくんばあらじ而して彼等現に皆な寢ねたりと云ふ蓋し心の願ふ所ろもろくも弱はき肉躰の爲めに制せられて之に打勝つ能はず遂に前後をも知らず寢ぬるに至れるもの歟人間の弱性悉く此の一例を以て盡し得たりと云ふべし。

因りて思ふに人の德を行ふは多く平素の心掛何如んに在り平生若し常に修練勤行して日夜其の德性を養なひ以て肉躰の慾を制するとを習はゞ其事慣れと爲つて知らず識らず情慾を抑

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

え得るの力を增し他日時に臨んで善行を爲すに左程の苦痛あらざるを覺ゆるもの也故に道德を重んじて品行脩身の事に掛念するものは彼の習慣と云へる一事に多く注意するところあらざる可らず。

抑も習慣とは毎度之を行ふが故に遂に習ひ慣れて自然に入り後には思はず知らずして之を行ふに至るの形狀を云へる者なり故に平生情慾の奴と爲つて每々其の卑しむべき處行に陷いるときは此の事習慣と爲つて遂には自から制止しがたきに至り最初は惡を行ふ每に多少の苦痛不快を感じたるも後には惡行自然に入つて心中殆んど之を頓着せざるに至り甚はだしきは知らず識らずして非常の罪業をも侵すに至る者なり好し然らずとも既に情慾に打勝たれて其の煩惱の火に身を燒くときは惡念の力いよ〳〵加はりて最早之に敵するあたはず之が奴隷と爲りて終始其の支配を蒙るの習慣と爲ることあり此に至りては心に何如に願うと雖ども最早善を行ふ能はず假令ひ心中もとより願はざる所ろと雖ども尪弱として罪を侵すが儘に侵すものあり眞とに憫れむべきものあれども其過ちは初めにあり最初其の惡習慣の根を絕つて日夜善行の修練に培かはざるが故に則はち遂に此の不幸救ふ可らざるの有樣には立至るもの也。然るに之とは全く反對にして平素成るべく情慾を抑へ成るべく善行を勤め成るべく正々の風儀を見習ひ日夜に其の心身を練りてひたすら善に進まんことを念願するときは最初一つの善事を爲すに餘程の苦痛を爲したるものが之に勝得て實際に此善を仕遂げ第二回目に至つて更らに熱心に次の善事を爲さんことを勤むるときは此度は苦痛前程にはあらず必らずや更らに容易に之を仕遂ぐることを得べし斯の如くして每々情慾を制して靈魂を發揮するときは此事亦た一つの習慣と爲りて後には思はず知らず善行を爲すに至るの樂地に進むことあり則はち所云る君子の境界にして吾人が日夜玆に達せんことを心掛くる所ろなるが省みて思ふに步々修業を積みて行かんに道路の艱難左程にはあらず分け登る每に愉快を感じて前途の甚はだ樂しみあるを覺ゆることも也孔子曰く吾れ七十にして心の欲する所に從つて矩を越ずと即はち七十年間の修行一種の習慣と爲り最早思まゝの處行を爲すとも悉く道に適するの聖域に達したるもの也。

此故に德を修め道に進むものは彼の習慣あるものゝ甚はだ重大の勢力あることを思はざる可らず左れば今ま娘女等の日夜學問に餘念なき方々及び愛子を撫育して後來の人物を造り成さ

Fashions on Hats from 1800 to 1887:—2.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

んとせらるゝ母親方に取つては此の習慣あるものよ注意を要すべきと甚だ切なり。（以下次號）

○八十七年間英國女帽の變遷（其二）

前號に第一より第十二迄を掲げたるが其餘は前頁に示す如し

第十三は千八百卅四年の頃のプロビンシアル、フハッション
第十四は千八百卅七年の頃のブラック、ストロウ、ハット
第十五は千八百四十年の頃のハット、ア、ラ、ベルギーレ
第十六は千八百四十二年の頃のハット、ア、ラ、クリノリ子
第十七は千八百五十年頃の流行
第十八は千八百六十年頃のベルレ、ジャルヂニーレ、ハット
第十九は千八百六十七年頃のスプリング、フハッション
第二十は千八百七十年頃の流行
第廿一は千八百七十五年頃のフエルト、ハット
第廿二は千八百八十年頃の流行
第廿三は千八百八十六年頃の帽子
第廿四は千八百八十七年即ち去年のボーレロ、ハット

○二附錄の序

第一。子供のはなし　孩瑅の翁

猿蟹合戰、かち〳〵山、又は舌切雀、花咲き爺、の類ひ與とにたわひも無き談しのように聞ゆて實は子供の爲に至極宜しきを得たるお談しなり只だ其の數の少なうして中には聞き當今の頑是なき幼な子には適せざる趣きもあれば何がな子供の心に能く適なひて而かも其の智德を發育するに効あらんお談しのあれかしと平常希がふ折から曩に「子供のはなし」と云へる小さき雜誌を發兌するものあり餘の教育雜誌類にも折々は其の類のもの見ゆるようなれども吾等の考へに落ちがたき只だ四角四面の六かしきお談し多きが如くなれば多年の遺憾は今日に至るまで慰むるの便よりあらざりしなり西洋にはミスアルコットの如く特更らに小供の讀むべき小說を作らるゝもあればセントニコラスの如く專一に幼な子の慰みよ編輯する雜誌あり又エソップ物語を初めとして其外數多のお談しを記るせる書物ありて子供に勸懲の旨を面白く敎ゆるの道備はるを見るに我國には未だ此邊の敎育に深く注意するものゝなきは甚はだ殘念なると也。

然るに此の數多の殘念の中にも吾々の責めとして最初に先づ自ら出でゝ任じたく思ふは即ち母親が其子供に話しきかするお談の編輯是れ也吾々は幼なき時猿蟹合戰の物語を聞いて多少功名心を起せしともあらん又花咲き爺のお談しを聞いて狡猾の惡德たる由を感ぜしともあらん此類の利益も多少は之れありしとなるが其他は多く幽靈バケ物のお談しにして只だ心に恐れを生じ物に臆病と成り必竟剛勇正誠の氣を養はるゝ所ろあらざりしかば扨てはお互ひに今日遺憾と悟る所ろも少なか

らぬ事にて此の遺憾殘念と思ふ所ろは即はち亦た後世の子孫をして均しき恨みを懷かしむるの元因なるべし。故に吾々は先づ母親方が其子に語らるゝ爲に宜しきを得たりと覺ゆるお談しを集め國民の元氣を其二葉の中に養成するの基ひを作らんと欲す。

因て此後時々かゝるお談しを附錄として本誌に添ゆべし但し其のお談しは只だ筋書を書いて別に文飾せず之を面白くもお可笑くもするは母親方御自身の便口に任じ即はち其の子の性質よりて法を說くの工夫を爲し玉はんことを望むと云ふ。

第二。小說神髓　月の舍　しのぶ

世に技術の功あることを知らんものは亦た同じく美術の功淺からざることを思はざる可らず平常勉勞の勉强たることを知らんものは即はち亦た遊樂の一種の勉强たることを悟らざる可らず吾人は素と人間浮世に存して天に對すたゞ馬の如く働くに在りと覺悟したりき然れども後ち大に其の誤まりを覺とり先づ美術の活世界に最大の必要あることを辨知し次に遊樂の繁劇務に無上の効能あることを辨知したり而して今ま眞正淸潔の美術遊樂の行はれんことを希望するの念更らにいよ〳〵隆んなるを覺へたり。

此故に女學雜誌上小說の一欄を設け及ばず乍ら多少の著譯を揭げて少さか右の希望を滿足し居りたる處ろ之にては尙ほ足らざるの憾みを感ずること尠しとせざるが故に向後歐米諸大家の小說中其の尤も著名なるものを一々通讀し全篇の趣向を極めて短簡に結晶し多くも十回少くば二三回にて數百枚の名作の神髓を抄き出し之を讀者の覽に入れて其遊樂の万一を補はんと欲す覽るもの若し其の精に肉を加え其神に形を附し之を一の完躰として眼前に結構し玉はゞ譯者の幸之に過るものあらじ。

小說

○奔彪榮華の夢

"Last Days of Pompeii"

英國　笠頓先生　原著
日本　靑笠小史　譯述

第二章　雅典人の述懷

虞朗加士、苦弄日亞士の兩人ハ尼日亞に別れて同じ街筋を步み行くと兩町有り苦弄日亞士ハ說話の途切目に「那の小娘ハ頓と君の附屬物の樣でハ無いか虞「如何にも那娘ハ附屬物と云ても宜しいシテ又僕に那程の忠義を盡す附屬物は外には無い而てサ那娘の唄ふ聲の好い事はサ流石に生れ故鄉が設西利

亞で神様の集會所の國だから兒供の時から其の神々に催眠歌を唄って貰ッた故でも有う 若「ハヽア設西利亞と云ば魔法を使ふ女巫の居る國だナ 虞「左様々々然し僕の見る所では魔法使は設西利亞には限らぬ何國の女でも皆魔を使ふ、特に君此の奔彪を見たまへ威那西(美貌ある女神の名)に縁が有かして鬚の無い者(女の事)は皆美しい何でも此土地の空氣には人を迷はせる原素が有ると見える (若弄日亞士は話の中より那方此方をキヨロ〳〵見廻せしが此時急に虞朗加士の袖を牽て) 若「ソリヤ見玉へ今君の云ふ奔彪の人迷せの空氣の大原素、魔法使の巨魁、威那西の最愛の氏子たる例の臺汚滅士老人の一人娘溢利亞が來たゾ〳〵、と低聲に云ふに虞朗加士は「ナニ何處に、と見遣る前面より年若き女子の奴隷を二人連たる一人の娘顔の半まで被衣を深く被りたるが徐に此方へ來る躰何様風呂にでも往くものと見へたり (若弄日亞士は疾足に傍に進みて) 若「イヤ溢利亞孃御機嫌好う、と辭を掛れば彼の娘は莞爾と笑つゝ被りし被衣を徐やかに引揚れば只見る望月の照り渡る如き羅馬風の横顔に今咲出たる如き薔薇色の化粧をし限なき星かと誤たるゝ清かなる眼に十分の愛嬌を含ませたるが此方に立る虞朗加士を一目見て 溢「オヽ虞朗加士君もお歸府と成たと見える、と傍邊の侍婢に耳語つゝ更に一 (一六)
層の低聲にて「妾は去年御目に掛りし其後とも那方の事をば忘れぬに彼方にては早や御見覺も無きにや、と呟やくは自から意有り氣にて何かは知ず恨み顔なり。虞朗加士は目瞬もせず溢利亞の面を目守り居たるが此とき感歎の聲を發して 虞「美麗なり溢利亞孃、古への美人麗郎は天の一方に飛去りしがいままた此地方に再生せり彼の威那西は儒比多を〆て一刻も其面影を忘れさせぬは (儒比多神嘗て威那西女神の美を慕ふて懊悩せしこと希臘の古詩に見えたり今虞朗加士も溢利亞の美を見てこゝろに忘れ敢ずその意あり) と打笑へば溢利亞も嬉し氣にホヽトわらひて 溢「虞朗加士君のお口の巧さよその御辭の半分ほど實意が有らば妾はうれしかるべきに 虞「是はしたり溢利亞孃 凡 其の目的の好い時は自然と好辭もいづるものあり然るを僞りとは曲が無し (溢利亞は此詞に少しく面を赧めしがその答へはせず若弄日亞士に打對いて) 溢「虞朗加士君もお歸府あれば明日明後日にも父の別莊を訪ひたまはずや待ち參らする、と會釋すれば若弄日亞士は哄々と笑ひて 若「貴孃のお招待と有る以上は爭でか辭し奉つるべき某唯今白石を隱袋に入れて忘れぬ標物と致すべし (白石を入るとは

賭奕師の勝負の數を算へる爲に爲す業なり）滋利亞は此辭を熟くも聞かず再び虞朗加士と瞥と見て會釋なし祓衣を下して此場を去りぬ

虞「ナント美しい質では無いか僕は去年初て遇た時唯人工を盡した寶石の肖像かと思ふ程ヽ赫灼して殆ど眼が眩んで仕舞た一體那の腦の中には何ナ思想を持て居らう若「否ナニ那の孃だからとて到底同じ人間さ原來婦女と云ふ的は何も此も皆同樣の感情を持て居るものだから滋利亞だとて別段に不思議は無からう唯先づ女房を貰ふならば標致が好くて持參金の澤山あるを娶ふのが第一サ、チエ君も矢張左樣だらう、と云へども虞朗加士は返答せず地上を見詰て歩みながらホッと云ふ溜息吐くは如何なる苦悶を俄に胸裏ヽ生じけん若皮膚上より見る解剖の術も有らば其情緒中に無數億萬の「滋利亞、滋利亞、滋利亞」と云ふ文字を現はし出すならん

さる程に二人の紳士は大路の群集を稍離れて忽ち廣き海岸に出でたり此日の日和に海の面も浪立たず吹く風は我が體を抱くが如く軟かにて炎暑も忘れ果られぬべし靜なる空には紅き蒼き雲層を爲し打續く濱には白き黑き石堆を爲す彼が輭風に搖曳する樣此が日光に炫耀する狀吟情深き希臘人（虞朗加士）には又比ひ無き眺望にて今新に釀し出せし心中の情苦も此景色には打勝れぬらんと覺えたり

虞「苦弄日亞士君未だ湯には早いやうだ暫く此の妙景を眺めて美麗の情を養なふでは無か若「大賛成々々々我儕が朝から立交はる市街紅塵の垢を掃つて幽玄の詩情を助長するには實に此の海灣の清冷なる空氣に觸れるに限るよ、と言ひたるが此の俗物の貴族たる苦弄日亞士の心中には奚の詩情かこれ有んや塵の幽玄かこれ有んや彼が汚穢き俗腸には縱ひ萬斛の清風を吹入れ海灣全面の冷潮を注ぐも洗ひ潔むべしとは思はれず然れども當時羅馬の士人中其の心腸の苦弄日亞士たらざる者蓋し又幾許あるや豈又た獨り彼をのみ尤めんや

佳傳

○マダムイリサベスの傳（其三）

長谷川峯子

斯る中にもイリサベスは看病の術に怠たりなく溢るゝばかりの愛心は間者なる門番にだも深き感じを持たしめたり王は太子に佛蘭西語羅甸語の學術及地理の日課を授けつゝ女王イリサベスは姬君に美術書學を敎へ又或時は獄内の庭に出でゝ球蹴りや種々なる遊戲を授け之を日々の仕事として送りけり此

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時獨の忠僕は倘ほ此牢屋に出入するヿを許されありしが一日例の如く入り來りイリサベスのひろやかなる祈をば許しを得てぞ書き留めたり其祈に曰へるようハ神よ我は今日如何なるヿの起り來るやを知らず然れども凡て爾の御心にして爾の曾てより知り給ふヿなるを知る願くは我心に滿足を與へ靜に爾の與へ給ふヿを受け得させ給へ願くは全心を擧げて爾に從はせ給へ此事を爾の親しき子たる耶蘇の御名を以て受け入れ給へと。

却說改革黨は種々の謀を運らして今ハ國王を調べ役に渡し彌明日ハ死刑にと定りし後唯一度此世の分れを爲すために再び牢屋に行くヿを許しけりされど愛する妻や若子達に柱とたのむ妹の顏を見る間も唯暫し必ず我讐を復すなんど思ふ心を起すなと手中の玉の太子をば抱き上げ父の殘し給ふ御言を堅く守り申さんと誓はせてぞ情け容赦もあらく〳〵しき兵卒共の連れ行くまゝに去りにけり明くる日の朝まだき女王及イリサベスは小供等と一ツまどひに惠める神よ未來を祈つゝ何となくあたりしめやかにありける折しも忽ち門前轟々と車輪の音の響くあり是ぞ即ち「ルイ王」が死刑の塲所に至る途にてハあれど妻子同胞の前を過ぎ行きながら一言の別れをも得て言ふヿかなはず車中に沈默なしたる心察しやられて憫れなり暫くありて一聲の大砲の響き渡るを聞たる彼等は各悟る所あり氣にて互に顏を見合せ茫然たり。不幸の續くハ嵐吹く夜半に草屋を燒く如く間もなく太子女王まで何れも敵の手の中に奪はれたれバ今ハ只エリサベスと姬君のみ倘も嚴しき扱ひを受けたり或日彼ハ食臺に向ひて言へるよう姬君よコハ貧しき人の食物なり我は今貧しき人となりたりされども廣き世の中にハ如此き食物さへも得るに難きものもあらん汝ハ父が現世に在せし時に宗敎は幸福を來すの母なり如何なる艱難も宗敎によりて勝ち得べし神の攝理により如何なるヿが汝の上に來るかを知らざれど唯神を信ぜよと殘し給ひし言葉を忘れ給ふな妾ハ汝に何か進せんと思へども紙や筆さへ取上られ書くべきこともかなはねバとて唯日頃大切に殘し置きたる父母のかたみの髮の毛と己れの髮を諸共に無限の意味を含ませて渡したりこれぞ最後の談話にや幾日も經ざる其内に此エリサベスも遂に捕手の爲に引き立てられ獨り小女を殘して死刑の塲所にと送られける。

三五二八の月倘欠く妾が心は月に如かずとは昔し支那の貞女が語りし言葉なるがマダム、イリサベスは刃の下に立ちなが

ら尙己れを忘れ人を慰さめ人を扶く眞に丈夫の振舞とこそ云ふべけれ茲に彼と同じく刑に處せらるゝもの二十四人其の內に一人の姙婦ありけるがイリサベス之を見て不愍に堪へず切に官吏に請ひ彼をして死より免ぬかれしめたり又「サムニー」あるものは愛國の爲に働きしことの却て逆と認められ遂に今の場合とありたるを痛く怒れる樣子なりしを君は曾て世に處して正しきとの爲に働きしものあらずや然れば今正しき者は何如に平和に死し得らるべきを示めされあば如何にやなどゝ勸め勵まして大に其人に滿足を得せしめたり又獨の母ある人は己れは殺さるゝを厭はざれども我愛する獨子の死を見るに忍びずとて嘆きければ此母に向て云るよう汝はもとより汝の御子を愛し給ふならん然れば今同じ時に浮世の艱難を打棄てゝ共に天國に入り給ふは如何に喜ばしきことに候はずやと其母之れによりて大に力を得來れ來れ我子よ共に高に登ぼらんと叫びて勇みけり殊にアムボイスなるものは平生最も臆病にして小さき蟲や蜘蛛を見るをだも恐れたる人あるにエリサベスの沈斷ある氣象に感じ獄屋の內にも死刑の臺上にある時もいと靜かにてありしとなり。

かくて無常の鐘と諸共に二十四人の兄弟姉妹は彼の臆病者を始めとしマダム、イリサベスを終りにしてクチナシ衣脫き更ゆる時は早や次第〳〵に迫りつゝ各イリサベスの處に至り最後の接吻に勇みて敵の刃に斃れけりイリサベスは顏色かゝやぎて憂ふる色更になく心の中にオヽ神よ爾の子ある基督の愛と忍びを我れにも與へ給へと祈念しつゝ從容として死に就く有樣誰一人として無限の感情を抱かざる者なかりしと云。

佛蘭西國帝ルイ十六世の妹にしてルイ十七世の叔母なるマダム、イリサベスの略傳實に此の如し嗚呼彼は其始め九重の中に養はれ甘んじて兄の困苦を共にせしのみか其心の內に含みたる信愛は馥郁として基督の榮を現はし死に至るまで高潔豪毅眞に我等の鑑と云ふべきなり斯の如きは固より神の攝理したまふ所と雖ども亦其始め彼の師傅たる人により自克の精神を養ひたる大なる結果と稱すべし是れぞ栴檀は二葉より馨ばしく蛇は寸にして其氣あるの謂あらんか嗚呼世の女丈夫を造らんとする母よ未來を案ずる勿れ後事を憂ふる勿れ寧ろ二葉の時に是を養へ寧ろ小兒の時に是を矯正せよ。

●寄書

○文苑

鈴木弘恭大人撰

雪埋松

君か代のゆたけきはるのしるしとてしつかに積る松のしら雪　中山ゆみ子

同

いつのまにふり積りけん松か枝のみとりも見ぬけさの白雪　曾波かね子

同

千代こめてふるしら雪に埋もれて姿しつけきみさりのふのまつ　戸澤わか子

同

白妙にすゑのまつ山ふりつもるみゆきのなみのこすかとそ見る　菊池なを子

同

こゝのへの大内山も白たへにまつさへ見ぬすゆきふりにけり　竹内とき子

同

白雪にまつのすかたハうもれても埋れぬものハみさを也けり　關場小竹子

同

松か枝にさわく風たにしつまりてのとけきさまに積る雪かな　塚木ふじ子

同

露霜にいろたにかへぬ松さへもしばしハうつむ今朝の白ゆき　日原さと子

同

ふりにふる君がめぐみの白雪をいたゞく松ぞいかにうれしき　髙橋のぶ子

同

ふり積るゆきの下なる松か枝も千代のみとりハ替らさりけり　立石こと子

同

豐年のしるしの雪のふりつみてときはの松もうつもれにけり　百　みち子

同

ゆたかなる年のしるしのあらハれて松さへけふハ雪に埋れつ　岡見ねい子

同

白たへにふりうつめたる大雪に松のみとりもかくろひにけり　田中美な子

同

ふりつもるみゆきにうつむ門松ハゆたかなる世の姿なりけり　吉田とみ子

同

降りつもるみにはの雪の白妙に松のみとりもうつもれにけり　三宅　楠子

同

けさ見れば千代のみどりも埋もれて雪しつかなる庭の松か枝　林　定野子

同

豐年のみつきのみ雪ふりつみてみにハの松もうつもれにけり　村木ひさ子

同

ときハなる松のみとりハ見ねども梢に雪のはなりさきける　森　むら子

同

ふるほどにみのふの松ハうつもれて山かとみゆる今朝の白雪　川並　通子

● 宮廷錄事

○行啓御摸樣　皇后陛下にハ去る廿三日午後一時三十分御出門日本赤十字社病院へ行啓同二時御着あり本社及病院職員、講師、篤志看護婦人、會員一同門內左右に奉迎し總裁二品彰仁親王殿下、婦人會幹事長二品彰仁親王殿下の御息所御先導にて便殿に着御、總裁、幹事長、其他副幹事長、一品熾仁親王殿下の御息所、二品貞愛親王殿下の御息所、二品能久親王殿下の御息所、社長佐野常民、副社長大給恒、同花房義質、院長橋本綱常、副院長石坂惟寬及外國敎師ドフレル、スクリバ等に謁を賜ひ二時五十分總裁幹事長御先導にて篤志看護婦人會講義所に臨御あり陸軍一等軍醫足立寬の講述する看護法を御聽聞あらせられ夫より總裁院長の御先導にて院內を御巡覽あらせらる衛生材料陳列所に於ては院長諸器械の使用法を奏上し病室に於ては醫員、看護婦の患者繃帶交換法を御覽あり手術室に於ては醫員、器械手、看護婦等の手術準備法を御覽畢りて便殿に於て茶菓を獻じ總裁社長院長より諸規則其他の書類を上り本社及病院の景況を啓し併せて報國恤兵の事等を奬勵したまふ盛旨を奉謝す午後四時頃御出門にて同四時三十分頃還御あらせられたり（一月廿五日官報）

○行啓　皇后宮ハ去月廿六日午後一時御出門華族女學校へ行啓あらせられたり

● 新報

○福岡婦人協會の解散

高知に於て諸ろの婦人會へ出席の事不相成旨女學生へ嚴達ありぬ、と承へり只だしく奇怪の思に堪へざりし處ろ此頃發兌の貴女之友には福岡婦人協會は解散の命を蒙りたりとの報ありと記載す。之は余まり意外の事にて殆んど信じがたし編者は同會の客員にして兼て情實をも精しく承知し居れど未だ左る報告も聞かず何さま不思議なるが故に直ちに問合せ遣しぬ何れ有無の確報を次號に記載するを得べし

○大日本私立婦人衛生會雜誌

いよいよ本月二日發兌に成れり兼ても申したる如く專ばら會員の女性方が編輯を擔當せらるべき處ろ新聞條例の制止する所ろと成つて吾人等代つて之に任ずるとなりぬ。第一號は二十四頁の中本にして無代價なり。加藤弘之（衛生のこうのう）坪井二郎（家屋のはなし）榊順二郎（月經攝生法）岡田みす（看病法大畧）山川ハる（女子のいましめ）荻野ぎん（本會設立の主旨）松の舍主人（雜誌の跋）等諸子の文章あり何れも平易にして有益なり

○京都私立女學校　上京三十組御幸町二條下る同校にては今度元府立師範學校長たりし中出利親同敎員二亦俊の兩氏及理化學敎師淸水某氏畵工岸某氏を聘し修身、歷史、家事、育兒の方法正則寫生畵等を敎授するよし

○婦人會設立計畫　福岡縣早頁郡庄村にては先頃より婦人協會を起し婦人の智德を進め風俗を改頁せんとて有志者は頻に周旋中の由

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○廣島高等女學校　同校の開校式ハ去月十一日にて貴婦人令孃及び朝野紳士の百五十餘名も來會せられ祝詞演說などあり頗る盛會なりしと校主ハ山中正雄氏校長は千田蘇茂子にて諸教師は尋常師範學校の諸教師の無謝儀にて補助せらるゝとのとなり

○熊本基督教婦人會　同會は去る十一日午後草葉町なる講義所にて初會を開かれし由同會は每水曜日に會員へ編物教授をなし每月第一土曜日に然るべき人を聘して講談會を開き賛成の婦人ハ何人にても入會を許さるゝ由

○婦人慈善會　愛媛縣北宇和郡寄松、宮下、保田、河内、祝森等諸村の婦人が申合せ慈善會を起さんとて去月十七日各村の重立たる婦人廿四五名集會し席上演說もあり頗る盛なりしと其組織の方法ハ一年春夏秋の三回に集會をなし每會一人に付金五十錢を持寄り其内拾錢を積立金とし確實なる所に預け置き各村にて極て赤貧なるもの或ハ非常の災害に罹りしものある時は之を以て救助し且迫ゝ金額の增加するに從び彼の十字社へも幾分を義捐し殘額四十錢の內より會費を引去りて殘額ハ每會抽籤法を用ひ鬮當りのものハ他に使用せずして養蠶製糸に係る諸機械を購求し專ら養蠶製糸の事業を改良するに在りとの事にて規則草案委員を撰び次會にて萬事を確定するよしなるが村落にては實に珍らしき美擧と云ふべし

○女子愛敬會　高松の女子は教育、經濟、裁縫等女子必要の學術技藝を講究し從來の弊風を一洗し相共に智識の開發を謀るが爲に同會を設け爾後每月二回以上集會を催すよし其規則を見れば宗教上に關する談話は一切なさゞるとのことなるが如何なる理由のあるにや

○婦人實學會　大坂東區高麗橋通栫檀木橋筋の同會は此度其組織を改め新にミッセス、テーラ幷にミッス、コルビーの二外國人を聘し他の日本教員を增し必要の學藝を教授する由

○私立神戶女子手藝學校　同校にては今度更らに米國より渡來せしバロス孃を聘して英語の教授を依囑し又洋服教師を增雇したりと

○試業社の女生徒　京都上京區今出川通り烏丸の華族會館分局內の試業社(華族の子弟を教授する所)に於てハ今度女生徒へ英學を教授すると、なりし由

○婦女子の職業　丹波國龜岡に於て昨年貿易縫授塲を設置したる處同地舊藩士族の婦女子中に無職業のもの多きを以て續ゝ同塲に入り追ゝ其藝に熟達して何れも相當に工料を得るに至り隨て同塲も益盛大に赴きしと云ふ○福島縣伊達郡川俣ハ織物に有名なる土地にて婦人ハ老壯共に織物に從事し平均三日に二反位を織り得て一ヶ月七八圓の賃金を取り又雇ハれずして自力にて居るものハ其絹を自家にて販賣する故十四圓位の收入ありて皆な競ふて勉業する由

○井石滿江子　東京癌風會議員井石滿江子ハ曩頃より越中富山にて同會の主旨を擴張せんが爲に會員募集に盡力し續ゝ賛成者ありて演說會を開設するの計畫もあるよし

○レース　從來東京府レース教場にて製作するレースは無地なりし處今度其色染方を職工學校に依賴されしと

○產婆開業免狀　昨年一月より十二月に至る一年間にて內務省より產婆開業免狀を付與せしは六十六人なりと云ふ

○在留外國婦人の數　去月廿五日官報に東京府下在留外國人の二十年十二月卅一日の總員數を揭げありしが其內婦人は二百二十三人にして開市塲內外住及其國籍を區別すれば開市塲內に住居するもの英國人二十一人、米國人卅二人、獨逸人九人、佛國人五人、淸國人八人、葡萄牙人七人、及開市塲外に住居するもの英國人四十二人、米國人卅九人、獨逸人三十人、佛國人十二人、淸國人七人、和蘭人六人、露西亞人二人、白耳義人二人葡萄牙人一人なりと

○內外人結婚　官報に據れば昨二十年中東京府下にて內國婦人にして佛國人及獨逸人に婚嫁するもの各一人なり又神川縣にて結婚せし數ハ六件にして婚儀完結せしもの五件、許可を得て婚儀を了せざるもの一件なり之を區別すれば內國婦人にして英國人に嫁せしもの三人、獨逸及葡萄牙人に嫁せしもの各一人、獨逸國人へ嫁するの許可を得て未だ婚儀を了せざるもの一人なり

○女生徒入學　高知尋常師範學校女子部にてハ昨年九月入校試驗をなせし節二十六名の生徒ハ假入學を許されありし處このほど皆本科へ編入することになりしと

○婦人交際會　三重縣津に於て同縣書記官伊藤、岩男の兩夫人發起となり去十二月中在津の諸令夫人令孃等婦人交際會の事を相談せられたるに數多の賛成者ありて去月十四日初めて同會を開かるゝに到りしと同會にてハ何人に限らず有志の婦人にして約束の諸項を守らるゝ方ハ入會を望まるゝ由なり

○上野婦人會　三重縣阿拜郡上野教育會員諸氏にハ同地女子教育の隆盛を圖らんが爲め同地有爲家の令閨令孃百五十餘名を去る十五日寺町尋常小學校に招き右に關する相談會を開きし由

○京都婦人慈善會　去る十四日午後一時より京都倶樂部に於て同會の月次會を開きし由

○私立女學校新築開校式　江州犬上郡日夏村の田中くり子と云へるは滋賀縣女子師範學校の卒業生の由なるが同村小學校の傍へ私立淸貞舍と云へる女學校を新築中の處既に工事落成し去る八日開校式を執行せられたり

○本庄婦人會　埼玉縣の本庄婦人會ハ本月十一日警察署へ願濟の上同驛小倉山房に於て午前十時より開會し先つ幹事日向八百子、雨森さと子、宮島とき子の三氏席上を周旋し夫より四柳とみ子祝文を續み次に日向きく子、井上まさ子等も祝文を朗讀せり休息の後會長松岡千代子婦人に關する演說をなし終りて東京婦人癌風會より聘したる青木すみ子二三の演說をなし最後に毛糸の編物等をなして散會したりとの報あり

○神戶英和女學校講堂獻堂式　神戶諏訪山下なる英和女學校に於て昨年七月新築に着手したる講堂ハ昨年來落成を告げしにより本月六日に獻堂式を執行せり同日午後二時會を開らき教員山內氏司會にて始に原田助氏祈禱を捧げ聖書を朗讀しア

●フシンケウクワイカイサンノコトナシ(二月一日福岡山崎氏發電)

ウキンソン氏學校の來歴及建築報告と併せて獻堂の肵をなし西京同志社教員ゴルドン博士同森田久萬人氏の女子教育に關したる演說あり村上俊吉氏の祝文長田時行氏の祝辭を以て終る當日の來賓には內海知事並夫人を始め諸官吏內外の紳士貴女諸教會の信徒五百餘名にて別室にて茶菓の饗あり其他一同に菓子を頒ちたり新講堂は費用凡そ四千圓にて米國信徒の寄贈に依て起工せしものにて樓上に一大講堂と二個の教塲樓下に七個の教塲其他運動塲浴室あり尙ほ本年中に寄宿舍一棟增築の目論見にて目今本邦有志中より醵金中なり本校は明治八年の創立に係り現今米國女教師三名本邦教員男女四名生徒百五十餘名寄宿舍不足に付き新入生徒を止むを得ず謝絕し居る由

○宇都宮通信　宇都宮婦人協會は第四回集會を宇都宮下町淸巖寺に於て開かれたり當日は樺山會長を始め會員相會するもの大凡四十名午后一時開會松本操貞加藤某氏の三絃合奏あり宇都宮公立病院醫員滝野、原の兩氏の育兒の演說あり頗る盛會なりし由○宇都宮東西兩校職員及び當町の有志の諸氏には音樂會を設けられ去年十一月下旬より始められたり會塲は栃木縣尋常師範學校校堂を借り教師は同校教諭大村芳樹氏にて每日午后三時より四時迄一時間宛勉强せられ會員も能く出席し近頃は非常に進歩せられたる由○栃木縣尋常師範學校は一昨年改革以來女生徒は有らさりしか本年四月には十四人許募集する由

●版權書目　一月中の官報にて報告されし版權免許の書籍の中女學に關する書目は左の如し

高等圖畫臨帖	中本六册	飯田俊亮編纂
國學和歌改良不可論	小本一册	武津八千穗著
初學染色法(染料藥品之部)	仝　一册	山岡次郎著
初學染色法(絹染の部)	仝　一册	仝
日本帝國一大現象志士淑女之想海	仝　一册	辻　治之助著
鉛筆畫獨學(第六號)	大本一册	佐々木道介著
畫學臨帖(自第九至第十一)	中本三册	前田吉彥著
小學德育新論	中本一册	西村正三郎著

●日本女況英文の附錄　本號に附錄としたる日本女況の英文は橫濱フェリス女學校の教員島田かし子が米國バッサル女子大學校にて世界各國の女況を取調るに應じて書送られたるものなり。因に云ふ右各國女況報告は既に前號にも記し置たる如く出來の上本社へも寄贈を得べきに付其上にて大畧を抄出するとあらん

●海外女事

○婦人職業同盟(續)　「ウーメンス、エニオンフオルナル」雜誌は此會の機關にして婦人の職業に關する總ての新報を記し且其他百般の便方を以てこれを助すくるなり委員諸氏は昨年も兩度大會を開き又其他數度の集會を催ふし時の不都合を暫く整理し雇主との間に暫く平和を周旋せり且一個の小書籍室を設け夜會等を作し勞力者の智德の上にも補助を與へり倫敦にある最大の三同盟會は婦人製本職、婦人家財什器修繕職及ウエストミンスタル及ピムリコ婦人仕立職なり此等の會には入會金二「シルリング」但し月賦を許るす、及每週會費二「ペンス」の少額なり而して疾病及職業を得さる時は一週間五「シルリング」を同會より請取ることを得るなり此會の委員等は非常の勉强を以て其事務をなし其功績は同會の會計の好結果にて明白なり

其他倫敦には花作り職、羽毛細工職、シャツ仕立職の小同盟會ありて其始めは少なるも漸次其好決果に因りて盛大に至るなり其他東倫敦仕立職同盟會あり

婦人同盟は倫敦のみに非ず府外の州郡にもあるなり即ちホルトマウスに一オキスフォルドに二此等は年々多額の積立金を得て進歩するなりアベルデンにも頗る大なるものあり又ダンデーの同盟は二年前に創設せられたるものなれとも會員速に增加して二千人の多きに至れりワルサル、レセストル、キダルリミンスター其他の都邑にても今之を創設せんと盡力甚た盛んなり其困難は唯た創立の際のみにして其成功期して待つへきもの事實の證する所なり

實に職業同盟は今日社會組織上の一表面を占むるものとなれり吾人は玆に其利害を詳論するを要せされとも元來壓伏せられたる女子の權利の伸張するは豫想の外に出つるを信するなり

一女生徒

●ニウハム女大學の景況

左は英國ケムブリッヂ大學の別部として存する著名の女子大學ニウハムの景況なりとて此頃の女王雜誌に掲載したるものに係る。

余此大學の事を記せんとするに當り記すへき事物甚た多を以て何の所に筆を下すへきやを知らさるなり余は此「ゼー、クイン」(此原文を載せたる雜誌の名)を讀む者は皆な明に此大學の目的を知るへしと信するが故へにこは玆に畧して單に其位地及學生の風俗習慣のみを記せんと欲するなり此校は「ガルトン」(女子大學の在る所)よりは稍々ケムブリッヂに近く「キングスコーレッヂ」より凡十分間の歩行にて達すへしこれ其位地の便益なる所なりケムブリヂの大通りなるトランピントン街より「クインス、コーレッヂ」の傍なる橋を渡り「カイヤス、フユロース」園及「リドレー」神學大學を過ぐれば道路の南北兩側に各々赤煉化石造の壯觀なる建築を見るべしこれ即ち此校の二舘なり南舘は圍らすに垣を以てし美麗なる園庭及樹園あり樹園の外部に又數個の爽快なる玉遊塲あり而して此園は古るきを以て樹木大に生長し居れとも北舘の園は未た玆に至らず樹陰甚た少なく殊に今年は新建築の爲めに其觀を損せり

學生の數凡そ百二十人にして其百人を此二舘に宿し二拾人は第三舘の新築成るまで假寄宿舍に在り其南舘はミッス、クラウ孃及教員書記等の諸氏之を監督せられ北舘は副校長ミッス、グラッドストン孃なり而て「ニウハム」大學々生は皆此校の生活の幸福なるを證するなり

(未完)

特別廣告

明治廿一年一月九日正午より麹町區中六番町櫻井女學校即矢島楫氏宅に於て祈禱會幷議員會を開く午後五時閉會

來會者　二十七名　主會　大儀見元一郎君

一時より祈禱會を開く

一　祈禱勸語　大儀見元一郎君　外六名

一　二時より相談會を開らく左の三件

一　會員たるものは轉居或は改姓の節速ゝ書記に届くべき事

一　右は規則書へ加ふ

一　入會を申込人へは可成本會の規則書等を能く承知したる上許すべき事

一　會員たるものは毎日正午に本會に付て祈禱を爲す事

一　祈禱勸話　巖本善治君

一　矯風會に關する外國雜誌を讀む　中川永輝君

一　月以來入會者人名

村垣みつ　伊勢つせ　内藤ゆき

稻垣　上野美津　同　久艮　黒崎　仁　工藤さの

出澤さい　大石睦世　宇佐美米

特別會員　村垣正道　北畠はる

廣告

米國桑港の某氏より東京下谷邊に存すると聞ける**婦女進德會**なるものへ向け職業上の雜誌一部御郵送相成り之を届くれべきよう本社に委托せらる然るに右樣の會は承はり及べるとなく又桑港發送者の姓名も詳らかならず甚だ困却候に付雙方とも心當りの方は更に細報あらんことを乞ふ

女學雜誌社

高等英語新誌

第十集發兌　每月二回發行

右は讀本、歷史、書簡、文法、英文作法、英文解剖、質疑應答等を丁寧詳密に講述せしものにして獨修するを得●漸次に高尙に趣き一ヶ年半にして卒業す●一錢の郵劵十三錢を投せば見本を呈す

東京神田區三崎町二丁目五番地

速成**高等英語通信會**

新版●**罫線學**　完

定價金五拾錢　郵稅金拾四錢

海野力太郎君著

學者實際家必携

發行　東京々橋區彌左衛門町七番地　經濟雜誌社

日本女子が一讀記臆すべき**良書出版**

●**百髮美貌開化ます鏡**　郵便稅共正價卅錢

發兌書林　東京横山町三丁目　**大村屋山崎晴吉**

移轉廣告

今般肩書の地に移轉仕候間此段屝知諸君に廣告す

小石川區小石川柳町廿七番地

跡見花蹊

女生徒募集

本校儀從前の校舍狹隘なるを以て左の處に建築落成候に付新に寄宿生通學生の入學を許す有志の諸君速に申込あれ

小石川區小石川柳町廿七番地

私立**跡見女學校**

遞信省認可

通俗教育新聞
ふりがな給いり　三八の日發行

●紙數十二ページ●一部金二錢●十部前金十八錢●府下十五區外一部郵税金一錢

近頃教育家の**集談場**なりとの好評を博せし通俗教育新聞は其父兄の**先導者**、兒童の**眞教師**にして眞に教育海の**燈明臺**、目的教師をして教育の方針を知らしめ父兄をして教育思想を起さしめ子弟に智識の訓錬をなさしめ以て斯道の改良擴張を謀るにあり●文躰は女、子供にも分り易きやう極て通俗平易に○教育上日々の出來事○論談○理科文獎の講義問答○子供仕付法○日本、西洋、繪入教育小說○忠臣、孝子、義士、烈女、英雄の肖像傳記○小學生徒作文○今躰詩歌○大家の論說等一も漏さず掲載せり●一月廿八日發行卅八號より**教育大家の特別投書**員を請ひ各地通信委員を増し且つ自今現今教育家の**肖像傳記**を掲げ**大に紙上の面目**を改めたれば世の**父兄教師、小學、中學生徒**の諸君も更らに一層の愛讀を給へ

東京京橋區築地二丁目廿七番地　**通俗教育社**

●●文苑英華第四編發行

●毎月五日廿日二回發兌●一部定價三錢八厘●府外郵税一錢
●十部前金郵税共四十五錢●見本郵劵五錢
●第四號目次●●文英○文廿九篇○詩五首○歌二首●史傳○垤摸斯窒斯傳(依田美狹古譯)○シルレル氏詳傳(天放逸民譯)●小說○鸚鳥譚第一回(白眼居士譯)●雜錄○希臘七賢原則○鄙諺五則●闘文○紀事十二章●文範○漢文譯一則(服南郭)
●●●●毎號附錄　英學獨修書あり

東京下谷區仲徒士町一丁目十三番地　英華書院

發兌					
一月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
二月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
三月。	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
四月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價			
一册。五錢	郵税。一錢	(但府內無郵税)	
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行　一回　(廿七字詰)　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町叢々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

發行所

東京京橋區日吉町八番地
本局　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治
印刷　森田豐